

Graduation Policy (GP)	
記入者氏名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程
コース等名	教科教育コース美術教育選修
細分名	
教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
<p>学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。</p>	
教育学部の Graduation Policy（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1．人間と教育に関わる事象を、問題意識をもって思考、調査、分析することができる。 2．自らの思考、調査、分析の結果を適切な方法で表現することができる。 3．自らの専門において習得した知識や能力を、実践に活用することができる。 	
学校教育教員養成課程の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
<p>子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。また、教職を目指すものとして、自らの生き方について謙虚に反省できる人材を養成する。</p>	
学校教育教員養成課程の Graduation Policy（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1．教育の理念や教職の意義を理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。 2．児童・生徒の心身の発達段階や教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。 3．道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。 4．参観・参加実習、介護等体験実習、基本実習、委託実習および事前・事後指導の経験を通して教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。 	
教科教育コース美術教育選修の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	

美術・造形芸術の表現と鑑賞の活動を通して、造形文化を体験的かつ理論的に理解し、造形表現能力と美術史・造形理論の探究力の向上をはかり、その専門的素養を教育現場における造形教育指導や他の造形芸術分野の活動において発揮できる人材を育成する。

図画工作科教育と美術科教育を核として、初等教育と中等教育を系統的かつ横断的に理解し、幅広くかつ柔軟な視点から教育を構想し、初等・中等いずれの校種においても教科指導ができる人材を育成する。

教科教育コース美術教育選修の Graduation Policy (具体的に記述・箇条書き)

1．造形芸術の各分野（絵画・彫刻・デザイン・工芸等）の専門的内容を表現と鑑賞の両側面から体験的に理解し、造形表現能力や美術史・美術理論の探究力を身に付けている。

2．造形芸術の専門的素養を生かして、造形教育指導を行うことができる。

3．造形芸術の専門的素養を生かして、造形芸術のあらゆる分野において活動ができる。

4．図画工作科教育と美術科教育を核として、初等教育と中等教育を系統的かつ横断的に理解し、幅広くかつ柔軟な視点から教育を構想し、初等・中等いずれの校種においても教科指導ができる。